

坂本四方太 しやうた 俳人、寫生文作家。明治八年二月四日鳥取縣生れ、大正八年五月十六日歿（二七三一九七）。本名四方太 よしかた。筆名又泉太、虎穴生、菡山人、坂本文泉太、阪本四方太。第一高等學校を經て、明治二十二年東京帝國大學文科大學國文學科卒。のち同大助教兼司書官。在學中から正岡子規の指導を受け、子規庵での蕪村句集論講、寫生文研究會に加はり、俳誌『ホトトギス』の選者と務めた。爾後寫生文に専心。

編著書 『寫生文集』（編、明治二十六年九月十八日俳書堂）、寫生文集 『帆

立貝』（虚子合著、明治二十九年二月二十五日俳書堂）、『續寫生文

集』（編、明治四十年四月一日俳書堂）、『新寫生文』（長崎、高瀬、高瀬、高瀬）

著、明治四十一年一月一日東亞堂書房）、『謠と能のあげごころ』（合

著、能樂談會 （坂元雪寫、神田石秋編）、大正七年四月二十日磯部田陽堂）等。